# 第4回
# 国際教育シンポジウム
# in 仙台

日時：平成３０年１１月 13 日

会場：仙台青葉学院短期大学長町キャンパス

主催：（株）日本ヒューマンヘルスケア研究所

協力：学校法人北杜学園

# 開催に寄せて

本シンポジウムは、今年で４回目を迎えます。第１回と第２回は県民会館大ホール、
昨年の第３回は国際センターで開催されました。第４回目の今年は、是非若い世代の方々にご参加頂きたいという願いから、思い切って教育の現場に出向く形を取ることになりました。北杜学園様の御協力のもと、本日当学園長町キャンパスにデンマークからの講師の先生方をお迎えして、本シンポジウムが開催される運びとなりました。北杜学園の鈴木理事長先生はじめ御関係者の皆さま、そして本日ご参加の学生さん方に
心より感謝申し上げます。又、遠路はるばる御来日頂きました千葉先生そしてスヴェンセン様御一行につきましても、心より深謝いたす次第です。

福祉先進国で知られるデンマークの“国民参加型の保育や介護の体制づくり”は、私達、日本国民にとっても参考になるように思われます。マネをするのではなく、私達が抱える多くの問題解決のヒントになったり、工夫することの大切さを知る機会となればと思います。

なかなかデンマークまで出向き、通訳を手配して施設や政府機関を視察して回るのは、費用も時間も大変な負担です。しかし、グローバル化された地球に暮らすには、多くの情報を得ることも大切です。他国の事情を知ることで、日本の良さを再認識することも少なくありません。是非、このシンポジウムに参加され、一緒に介護や保育、療育や看護・リハビリテーションの在り方などについて考えてみませんか。

デンマークも 100 余年前は「マッチ売りの少女」（アンデルセン童話）に描かれたような福祉国家とはいえない状態でした。しかし、現在では世界屈指の福祉先進国となりました。皆様の歩まれる未来に向けて、少しでも役に立つヒントが見つけられることを心より期待しております。

中村 裕子

（株）日本ヒューマンヘルスケア研究所所長

# 第 4 回国際教育シンポジウム開催にあたり

学校法人北杜学園　理事長
仙台青葉学院短期大学　学長
仙台医療福祉専門学校　校長

鈴木一樹

このたび、長年本学園の非常勤講師として学生の教育にご尽力を頂いております中村裕子先生の特別のお計らいによりまして、本学園の学生のために第 4 回国際教育シンポジュウムを開催していただくこととなりました。

本日参加する学生の皆さんにとりましては、未来の医療や福祉の現場において専門職業人として生きていく上で、大変貴重な体験になる事と期待しております。

日本はこれまで福祉先進国デンマークにいろいろなことを学び、日本独自の福祉システム構築に生かしてきました。その中で、社会福祉士や社会福祉主事、介護福祉士、保育士などの福祉の専門職が生まれ、リハビリテーションの分野においても理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が独立した職業として日本の医療現場で活躍するようになりました。

現在、これらの専門職の方々の活躍の場が広がってきています。医療と福祉の垣根を超えその専門性を生かしながら一人ひとりの人間の尊厳と向き合っています。

日本の医療・福祉の現場も少しずつ変化し、時代とともに様変わりを続けています。その意味で、日本の医療・福祉の体制のはるかに先を行くデンマークの現状を知ることで、日本の現状を再認識し、医療や福祉のあり方を自分なりに考えてみることは、これからのその世界に飛び込む学生たちにとっては、何物にも代えがたい貴重な体験になる事と思います。

本来、このような体験は遠くデンマークまで行かないと実現できない事ではあります。学生の皆さんは、今回特別のお計らいを頂いたことに感謝の気持ちをもちながら積極的に参加してほしいと思います。

最後にこのような貴重な時間を本学園の学生のためにご提供くださった日本ヒューマンヘルスケア研究所所長の中村裕子先生、日本・デンマーク生活研究所理事長の千葉忠夫先生を始め、遠く日本にお越しいただいいたフォド・スヴェンゼン先生、エヴァ・スヴェンゼン先生に心より感謝申し上げます。

# 第4回国際教育シンポジウム in 仙台

## プログラム

9:30～ 9:35　開会の挨拶　研究所所長 中村裕子
前聖隷クリストファー大学大学院教授

9:35～10:05　基調講演　バンクミケルセン記念財団 理事長 千葉忠夫氏
日本・デンマーク生活研究所所長
「福祉国家デンマークとノーマリゼーション」

10:05～10:35　提言(1)　前社会省事務次官補 フォド・スヴェンセン氏
「デンマークが社会福祉国家になった背景と今後の課題」

10:35～11:05　提言(2)　前幼稚園園長 エヴァ・K・スヴェンセン氏
「ペダゴー(生活指導教諭)の必要性と養成教育の在り方」

11:05～11:20　提言(3)　日本ヒューマンヘルスケア研究所所長 中村裕子氏
「脳科学の視点からみたデンマークの福祉施策・教育の特徴」

11:20～11:30　質疑応答・まとめ

11:30　閉会の言葉　仙台医療福祉専門学校校長 鈴木一樹氏

# 第4回国際教育シンポジウム in 仙台

## プログラム

13:00～13:05　開会の挨拶　研究所所長　中村裕子
前聖隷クリストファー大学大学院教授

13:05～13:35　基調講演　バンクミケルセン財団　理事長　千葉忠夫氏
日本・デンマーク生活研究所理事長
「福祉国家デンマークとノーマリゼーション」

13:35～14:05　提言(1)　前社会省事務次官補　フォド・スヴェンセン氏
「デンマークが社会福祉国家になった背景と今後の課題」

14:05～14:35　提言(2)　前幼稚園園長　エヴァ・K・スヴェンセン氏
「ペダゴー(生活指導教諭)の必要性と養成教育の在り方」

14:35～14:50　提言(3)　日本ヒューマンヘルスケア研究所所長　中村裕子氏
「脳科学の視点からみたデンマークの福祉施策・教育の特徴」

14:50～15:00　質疑応答・まとめ

15:00　閉会の言葉　仙台青葉学院短期大学学長　鈴木一樹氏

# 講師紹介

**千葉忠夫 氏**　**Eva K. Svendsen 氏**　**Frode Svendsen 氏**　**中村裕子 氏**

**国際福祉専門家**　**保育療育専門家**　**福祉施策専門家**　**医療福祉（医学博士）**

**千葉忠夫氏**

岩手県一関市で育つ。1967年よりデンマーク在住。26 歳でデンマークに渡り、オーデンセ大学で学ぶ。その後、オーデンセ生活学園を設立、学園長に就任、1997年に日欧文化交流学院を設立、学園長を経てバンクミケルセン記念財団理事長、日本・デンマーク生活研究所理事長となり、現在に至る。著書に「世界一幸せな国デンマークの暮し方」「格差と貧困のないデンマーク」

**フォド・スヴェンセン氏**

1974年コペンハーゲン大学法学部卒業、1975年に社会省に入省。その後、1989年から社会省大臣秘書官を務め、1994年に社会省障害者局副局長に就任。2013年社会省事務次官補となり2015年退官、現在に至る。

**フォド・K・スヴェンセン氏**

1972年コペンハーゲンペタゴー（生活指導教諭養成）大学卒業、同年ペダゴーとして幼稚園に勤務。その後、1982年に保育園の園長に就任、1989 年に幼稚園の園長を拝命。2013 年退職し現在に至る。

**中村裕子氏**

1982年米国『カリフォルニア州立大学ロサンゼルス校（UCLA）医学部（行動神経学ベンソン教室）に留学。帰国後、1989年東北大学医学部神経内科にて医学博士号取得。1993年東京大学医学部大学院（国際保健学科）博士前期・後期課程入学（～1998）、途中米国ジョージタウン大学ケネデイ倫理学研究所に客員研究員として留学。帰国後、1996年仙台白百合女子大学教授（～2009）、2009年聖隷クリストファー大学大学院教授（～2016）。2016年（株）日本ヒューマンヘルスケア研究所所長に就任、現在に至る。主な著書「臨床失語症学」（2006）、「臨床家のための生命倫理学」（2007）、「認知症の理解と介護」（2015）、「コミュニケーション技術」（2016）、他。